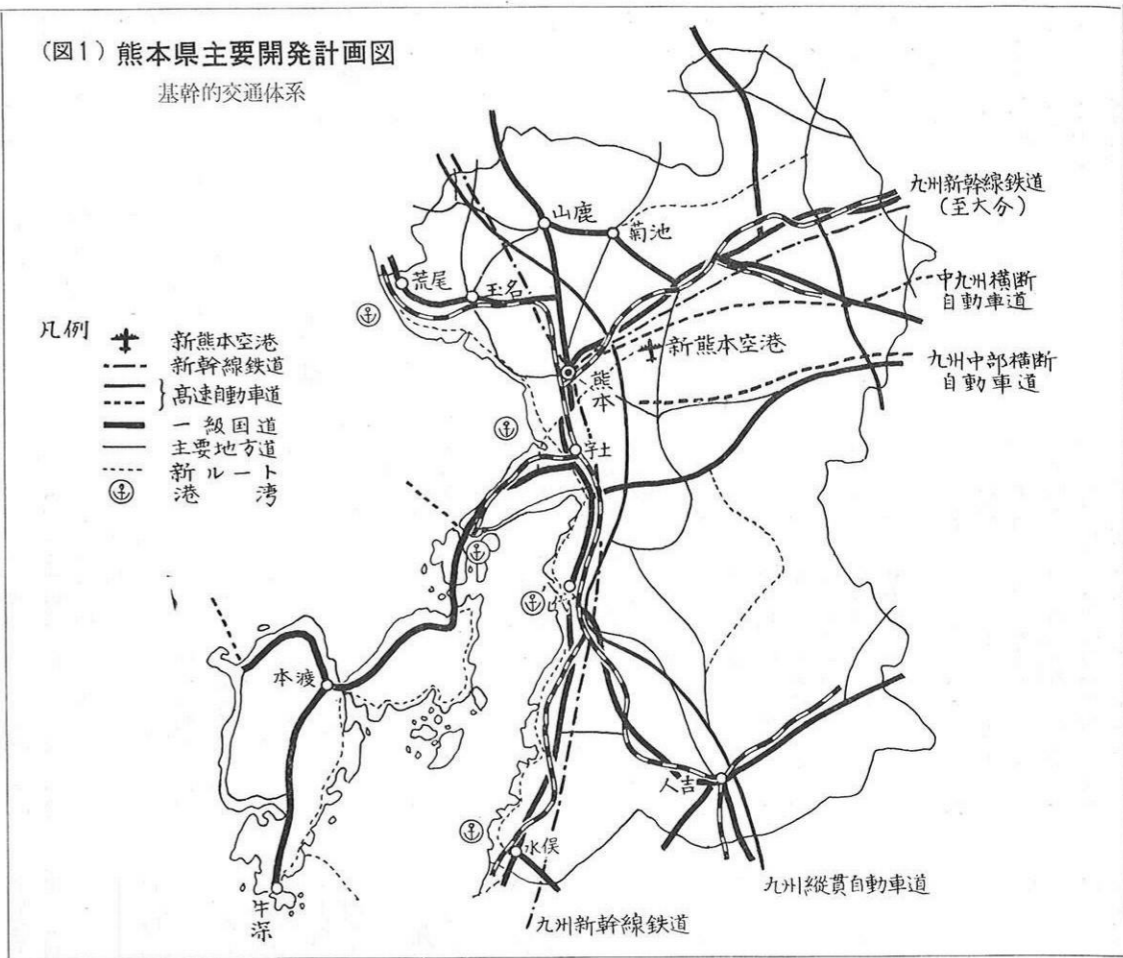


(図1) 熊本県主要開発計画図



ともに、誘致企業との関連性を強めるよう誘導し、中業堅企としてその育成をはかる。

▽高生産性農林水産業の確立 ① 生産性の向上と産地の大型化

農業については、農業構造改善事業や農地流動化の促進、制度金融の拡充などによって、経営の規模拡大と自立経営農家の育成に努めるとともに、これを中核として兼業農家を含めた生産の協業化、共同化をはかり、今後の農産物需要の変化に即応した生産の拡大と産地の大型化を強力に推進する。

米については、当面、転作、休耕など需要との調整をほかりながら、長期的には生産性の向上と品質改善の要請に対処して、水稲作にすぐれた生産条件を持ち、条件整備の可能性が大きい平野部において、生産基盤の整備とあわせて大型機械化技術体系の導入に努め、生産性の高い水稲地帯として形成する。

一方、食生活の高度化にともない、わが国における畜産物の需要は大幅に拡大するものと見込まれている

が、これらの需要の増大に対処して、阿蘇を中心とする高原地帯に新しい技術を駆使した草地畜産方式をとりいれ、肉用牛および乳用牛の大規模な生産基地を形成する。さらに、これと有機的に関連づけながら平たん部においても、酪農団地および肉用牛肥育団地の育成をほかり、養豚団地、養鶏団地などとあわせて県下に大規模な畜産団地の形成をすすめる。

また、果樹については、有明海、八代海の沿岸丘陵地帯、県北部および天草諸島などにおいて広域の生産団地を育成し、高効率の機械化技術体系の確立による省力と品質の向上をはかる。

そのほか、大型ハウスによる平野部の施設園芸団地、畑作地帯における野菜集産団地、中山間部における養蚕団地、八代平野などを中心とする草の集産団地のほか、たばこ、茶など地域の特性に応じた主産地化をすすめる。なお、将来の農業は商品価値の高い作目の生産に移行するものとみられ、そのような方向を踏まえて、高級花きその他新しい商品作目の開発と産地化に努め、創意と経済性に富む新しい農業の展開をすすめる必要がある。

林業については、阿蘇から矢部、球磨一帯の山地における特定森林地域の大規模開発を推進し、森林資源の開発に努めるとともに、経営規模の拡大や協業化、機械化の促進によって生産性の向上をはかる。また、今後、需要の増大が期待される樹芸林業その他の特殊林産物の生産拡大に努める。

水産業については、天草の海域をはじめ八代海、有明海の適地に大規模な養殖

漁業の展開をはかるとともに、魚礁の設置、中高級魚介類種苗の放流など生産性の高い栽培漁業の推進に努める。また、漁業技術の改良をはかり、経営の近代化を促進するほか、生産と流通の拠点となる中核漁港を重点的に整備する。

② 流通加工体系の整備 今後、全国的な高速交通網の整備やコールドチェーン方式の普及などによる輸送技術の革新によって、農産物の輸送条件は著しく改善されるものとみられる。このような状況のもとで、本県が激しい産地間競争にうち勝ち、農業生産の基地として確固たる地位を確立していくためには、計画的に産地と東京、大阪などの大消費地と結ぶ新しい流通機構の整備をはかることが重要である。また最近、農業分野において大手商業資本の進出が急速に増加する傾向にあり、農業の生産、流通加工の体系は大きな変革期を迎えようとしている。

これらの動きに対処して、農業協同組合は最大限の努力を払ってその近代化に努めるとともに、これを中心として各地域ごとの生産から貯蔵、加工、流通までを機能的に調整する新しい管理方式の確立をはかる。特に畜産物、果実、野菜などの生鮮食料品については、効率的な選別、貯蔵、加工施設の整備をはかるとともに、産地の作況や出荷の動向、消費地に関する情報を迅速に処理できるような情報機能の強化に努めるなど、大規模な共同販売組織の育成をはかる。そのほか、農業生産の増大に即応して海外への輸出を促進する。

水産業についても中核漁港に水揚げ、冷凍加工など一連の流通加工施設を配置し、産地市場の形成をめざすと同時に、出荷の調整、輸送体系の改善をはかる。

▽国民的観光レクリエーション地帯の形成 国民生活の向上と都市生活者の増加および余暇時間の増大によって、わが国の観光需要は今後ますます増加するとみられるが、特に本県は九州広域観光ルートの中心地に当たり、阿蘇、天草の両国立公園のほか各地に豊富な観光資源をもち、きわめてすぐれた立地条件を有している。したがって今後における観光需要の質的变化やモータリゼーションの進展ならびに道路、鉄道、空港など交通条件の改善に即応して、九州広域観光ルートの拠点としての地位の向上をはかり、阿蘇を中心とする高原観光地帯、天草、芦北海岸を中心とする海洋観光地帯、および人吉球磨、矢部を中心とする森林観光地帯を形成し、国民的観光レクリエーション地帯としての発展をはかる。

そのため、中核都市熊本においては水と森を生かし都市美の形成に努め、宿泊、会議施設などの整備をはかるとともに、情報、幹線機能の向上に努めるほか、全国の主要都市と結ぶ航空路の開設、さらには九州各地へ向けての観光バスの発着など、九州広域観光における拠点都市として中核機能の向上をはかる。

高原観光地帯については、阿蘇のもつ雄大な景観と高原の広々とした空間を有機的に結びつけ開発することによって、わが国屈指の観光レクリエーション地帯

を形成する。そのため、阿蘇スカイライオン、五岳および外輪山の一周コースならびに南阿蘇からの登山道路など観光ルートの開発をすすめるとともに、高原別荘村の建設やレジャーランド、ゴルフ場、観光牧場など高原を彩る施設の整備を促進する。

海洋観光地帯については、不知火海域総合開発計画の具体化をはかることによつて、芦北海岸および天草諸島の魅力的な海岸美と海洋資源を十分に活用し、この地域を大規模な海のスポーツ、レクリエーション基地として開発する。そのため、沿岸をめぐる周遊道路を整備するほか、適地にモーターボートやヨットハーバー、フィッシングセンター、海水浴場など海の利用施設や宿泊施設を整備するとともに、海中公園の建設を推進する。

また人吉球磨地域から矢部に至る広大な森林地帯においては、森林の景観や河川の渓谷美など自然のままの環境を生かして、自然探勝歩道や国民宿舎、キャンプ村、民宿などの整備をはかり、地方色豊かな森林観光地帯として開発する。なお、人吉地方は本県と南九州の観光地帯を結ぶ拠点として整備する。

▽流通体系の整備と貿易の振興

本県において現在建設をすすめている新熊本空港と九州縦貫自動車道は、昭和四十六年および五十年にはその機能を発揮できるようになり、新幹線鉄道の建設とあわせて、五十年代には本格的な高速交通時代が到来する。その結果、国民経済の地域間交流はますます広

域化し、輸送手段の革新とあわせて、輸送の長距離化、大量化、専用化は格段に進展するとみられる。

このような輸送革命の進展と情報化社会の到来に即応して、本県における流通機能の向上と情報機能の拡大をはかるため、トラックターミナル、コンテナヤード、倉庫などを含む流通センターの建設を促進するとともに、電子計算機の共同利用による迅速適確な情報処理体制の確立をはかり、物的流通の拡大と商取引の円滑化に努める。また商圏の拡大と工業生産の増大に対処して卸売業の体質改善をはかるため、問屋街の再開発や産地問屋の育成を行なうほか、協業化、組織化などによって経営の大規模化を促進する。さらに、大型店舗の進出がすすむなかで、中小商業の振興をはかり近代化を促進するため、金融制度の拡充、協業化、共同化の推進など経営の合理化をすすめる。また、中小企業の経営者、従業員を対象とした研修制度を充実し、積極的な市場開拓と流通圏の拡大をめざした経営意識の高揚をはかる。

次に九州のもつ地理的条件、経済的背景から、東南アジア諸国、アジア大陸との貿易を拡大する必要があるが、そのため本県では、海外への航空路の開設、港湾の貿易機能の整備ならびに海外見本市の開催など積極的な施策を展開することによって、貿易の拡大に努める。さらに東南アジアとの経済的、文化的な交流を活発にするため、これらの地域の開発援助に貢献する人材の育成に協力する。